

令和5年度
学校関係者評価報告書
(第1回)

令和5年5月24日(水)

学校法人 九州総合学院
鹿児島情報ビジネス公務員専門学校

1. 「学校関係者評価」の実施方法について

今回の「学校関係者評価」は、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえた評価項目に沿って実施した「令和元年度自己点検・評価報告書」について、本校に関連する企業等9名の評価委員（委員一覧表）に評価していただいた。

評価委員からの意見は、本校で組織する自己点検・評価委員会委員長（校長）および教職員が承り、その評価結果の内容等について要約の上、報告書として取りまとめた。

2. 学校関係者評価委員一覧表

(順不同・敬称略)

評価委員	会社（企業）名	役職名	任期	備考
久永 忠範	一般社団法人 鹿児島県情報サービス産業協会	会長	R7. 3. 31	株式会社 フォーエバー 代表取締役
新 政行	株式会社 スマートエンジニアリング	常務取締役	R7. 3. 31	(当日・欠席)
竹下 とみお	特定非営利活動法人 鹿児島デザイン協会	代表理事	R7. 3. 31	協同組合 ドゥ・アート 代表理事
小森 昌章	株式会社 小森昌章建築設計事務所	理事	R7. 3. 31	
押井 啓一	南九州税理士会	副会長	R7. 3. 31	税理士法人 押井会計代表社員
眞邊 隆洋	合同会社 エムコミュニケーション	代表	R7. 3. 31	
萬 英治	鹿児島医療経営研究会(KMM)	顧問	R7. 3. 31	一般社団法人鹿児島 県医療法人協会 協会立看護専門学校 /事務長
前平 秀康	卒業生	取締役 総務部長	R7. 3. 31	株式会社 土佐屋 取締役 総務部長
柳川 勝吾	保護者		R7. 3. 31	(当日・欠席)

3. 委員会次第（概要）

（1）開会

（2）学校長挨拶

就任の挨拶と本委員会の目的について説明を行った。

（3）委員長選任

本校、校長 中広 義隆委員を委員長に選出し、議長とした。

（4）令和5年度 学校自己点検評価報告

校長より、評価の変更の項目および、今後の取り組みについての報告を行った。

（詳細は後記のとおり）

（5）討議・意見交換

各評価委員から、報告に対するご意見・ご指摘をいただいた。

（詳細は後記のとおり）

（6）顧問挨拶

（7）閉会

4. 評価の変更の項目および、今後の取り組みについての報告（校長）

・ 1 建学の精神・教育理念、教育目標

例年通り4評価。大きな問題点はない。2 教職員に対して教育理念を明文化して周知徹底を図っているかという点については月に1回実施している職員会議や朝礼や学科によっては夕礼などで周知徹底を図っている。

・ 2 教育の内容

例年どおり4評価。大きな問題点はない。カリキュラム作成シラバスやテキストなどの作成時に業界の状況に合わせて見直しを図り、改善を行っていくことが重要である。すべての学科において重要である。この点に対しては教務担当にしっかりと伝えていく。

20-（リメディアル教育を行っているか）大変なことで手間がかかることだが補習や補講など落ちこぼれをなくし、目をかけてしっかりと引き上げていくことは、専門学校の使命である。

・ 3 教育の実施制度

3-（図書室・図書コーナーなどがあるか）図書室・図書コーナーについては今回作った macroom のリラクソエリアなども活用できるのでないか。図書室・書籍だけにこだわらず Wi-Fi が整備していればWEB やモバイルなどで通話や検索も可能である。ただし、正しい情報であるかは文献を参考にしなければならない。WEB でのしっかりとした情報収集も同時に重要である。

・ 4 教育目標の達成度と教育効果

学生の就職が最重要事項である。もちろん資格取得もあわせて重要項目。今後、コンペティションの参加や受賞実績なども大事ではあるが、一番重要なのは出口でありしっかりと送り出すことが非常に重要である。今後もしっかりと継続していきたい。

・ 5 学生支援

【項目内容変更】18-（卒業生の会、同窓会等はあるか。）

⇒（卒業生への支援体制はあるか。）

以前「同窓会はあるのか」という項目も準備中という中途半端な状態が続いていた。現実的に今後作っていくのは骨が折れ、実際に立ち上げたとしてもどのようになるのかという部分もある。卒業生への支

援体制があるかどうかという部分では適宜対応してきているので卒業生への支援ができているという認識である。

- 5 学生支援

【項目削除】20- (卒業生への講習・研修を行っているか。)

18- (卒業生への支援体制はあるか。) の内容に含まれると認識されるため

- 5 学生支援

【項目削除】23- (保護者の会、講演会等はあるか。)

25- (学校情報を保護者に周知しているか。HP、学校便り等) の内容に含まれると認識されるため。保護者との適切な連携はなされていると思っている。要件は満たしているという認識であり保護者の会は現実的には無理である。専門学校には保護者の会は存在しているところは少ない。高校には存在する。

- 5 学生支援

【項目内容変更】24- (企業の会、就職後援会等はあるか。)

⇒ (進路・就職に関する支援体制は整備されているか。)

教務の担当教員に依存しているのが大きい。就職支援の担当者や就職支援室などの設置などの学校としての体制が今後整えられたらと考えている。

- 6 社会的活動

【項目変更】5- (地域活動、地域貢献、ボランティア活動等を評価の単位認定しているか。)

⇒ (学生のボランティア活動を奨励・支援しているか。)

単位認定は高校では該当するが専門学校、高等教育機関においては基本的にしていないことが多い。ただし、ボランティア活動は推奨しているという立場で支援を行っている。

- 7 管理・運営 (各校)

5-(防災・防犯・非常時対策に関する規定が、文書化されているか)

6-(防災・防犯対策に関して、組織化されているか)

全国的に大きな地震が頻発しており、緊急時に備えて3階 MacRoom の改装にあわせて、自動販売機の業者の見直しを実施。以前は4社であったがコカ・コーラ社のみに変更し新型の自動販売機を設置。節電効果があり、さらに2つの理由がある。災害時対応機種自動販売機を導入。大型災害時に帰宅困難者などが自動販売機の飲料を飲むことができる。また2つ目の理由は飲料水のサポート支援。アクエリアスを240本入れていただき、5月のスポーツ Day に学生に支給。折を見て今後もお願いし、ストックをして緊急時の飲料水の確保につなげる。1社にしぼることによっていろいろな支援や協力を依頼しやすい。結果、学生への還元につながっている。

5. 討議・意見交換について

各評価委員から、様々な視点からご意見・ご指摘をいただいた。

■久永委員

「適切…4」という形で前回も話したが、文章を作ったときの状況と2、3年経つと状況が違ってきている。その基準によって「4+ (プラス)」ぐらいにならないと維持できているというイメージがわからない。

(校長) 果たして4でいいのかという見直しが必要なのか。

適切なプラスを作っていくことが成長であると思う。そこが見えるような形にするのがいい。文章に沿って評価して「4」ではなくて、今の時代に合った内容でたとえば防災に関してはこういうことをしているからなどの形で「4+」という評価が出てこなければならない。全部を当時作った文章の中だけで考えるのではなく、評価していくことが必要。

(校長⇒谷川) 文科省の指示で4段階で評価しているか確認。

「適切…4」の評価でもいいが、評価の際は作った当時との考え方を変えなければならない。

【5】学生支援-23の保護者会について保護者との連携についてどのように行っているのか。どのよう関わりを持っているのか。KBCCに子供を入学させて保護者も就職や学校生活などの情報収集などをどのようにされているかを文章で見えていたほうがいい。保護者会を作る必要まではないが、その点はしっかりとチェックしたほうがいい。進路や就職に関する支援体制は学生に対しては行っているとは思いますが、保護者に対してどういう情報提供を行っているのかなどの項目が評価の中にあってもいいのではないかと。

(萬委員) 保護者に対する説明会は行っているのか。

(谷川) 3月末に全保護者に参加いただき入学前オリエンテーションというかたちで、学校のカリキュラムや検定、奨学生制度などについて説明を実施している。

(校長) 入学後は実施していない。あとは個別に保護者に来校いただき対応を実施。

保護者の居住地なども県内各地ばらばらなため一斉に集めるのはむずかしい

オンラインで学校から発信して保護者の方が見られるようにするような工夫もいいのではないかと。学校としての取り組みなどを発信することで保護者が子供の生活についてよくわかるのではないかと。そのような連携方法もいいのではないかと。

(校長) 保護者もだいぶオンラインに慣れてきている状況だと思われるのでぜひやりたい。

■萬委員

この評価に関しては極めて自然で妥当なのではないかと。「適切」の上の評価となれば、「範となる」になり進んだ取り組みをして他に対して模範となるような意味になる。ここまで4が並ぶと成長のためには上を目指してほしい。

(校長) 1度「4」を取ってしまうとそれ以降目を向けなくなってしまうことがある。

「4」の評価の項目も逐一見直しをする必要があるかもしれない。

■竹下委員

SNSを利用してもっと保護者とも学生ともつながっていく活動をもっとしたほうがいい。学校の場合はそのような部分をもっと強く出すと、部外者から見た場合も更新が頻繁にされているとわかっていいと思う。

(校長) 年度初めの職員会議でKBCCだよりを书面での郵送からデジタル化して配信していけば気軽に見ていただけるのではないかと働きかけている。様子をみながら進めていきたい。
SNSは有効だと感じる。

■小森委員

【5】学生支援-24(進路・就職に関する支援体制は整備されているか)について
学生にとって進路や就職はかなり大きな大事な部分だと思われるが、評価3の理由が担任への依存度が大きいとなっているが、学校側としての支援体制の内容を聞かせてほしい。

(校長) 理想としては進路指導部、進路指導室を設けて担当者を配置して企業訪問の実施の頻度を高めて学生指導も適宜時間をしっかり取って実施したい。しかし、現状は教務担当に依存している。
教務は授業準備、授業自体もあり企業訪問もままならない状況で忙しい合間を縫って行っているのが現実。学校として問題と考えている。

今は専門でしている担当はいないのか。

(校長) 今はいない。

就職は人手不足の中で就職口はたくさんあると思うがどのような状況であるか。

(校長) 就職状況は悪くないが、精度をあげて教務の労力を軽減していきたい。

■前平委員

【5】学生支援-19(卒業生への職業紹介をしているか)について
学校として具体的にどのような取り組みをされているか

(谷川) KBCCは卒業生がよく来校してくれている。中には会社を辞めた卒業生などもいる。

社会人の訓練生を対象とした求人を紹介したりしている。その中には学生の新卒にこだわらない即採用の求人もあるので、紹介を行う場合もある。

(校長) 企業から今すぐにでも採用できる方はいないかという問い合わせがあった場合は、タイムリーに転職を考えていたり求職中の卒業生がいれば紹介している。私学のいいところは担当の教員がずっと在籍しているというところがメリットで相談しやすい状況なのではないか。

顔を合わせて対応できていることはとてもいいと思う。インターネットを使用する部分も多くを占めていると思うが、鹿児島地の元企業だと全企業というわけにはいかないと思う。そういうことから考えるとKBCCを介して地元の企業に就職できていたらいい事例だと思う。

(校長) 自力でも探せると思うが、母校を頼るという手段も使って、いい就職先を探してほしい。

■眞邊委員

保護者からの連絡などはほぼ大勢の方がLINEを使われていると思う。学科ごとの保護者のグループラインを作成して情報を共有すると保護者側にも目に見えていい。しかもかしこまる必要がなく保護者間のやり

とることができる。保護者間で「あそこの学校よかったよ」「うちの子を行かせてすごくよかったよ」など保護者間で情報の伝達が行われている。「学校でこういうことを学んでこういう先生がいたから就職できたんだよ」など。そういったことが伝っていけば、学校としての強みが生まれると思う。

【6】社会的活動-5(学生のボランティア活動を推奨・支援しているか)について
学生からこういうボランティアをしたいなどの話があるのか。それとも学校から清掃などをイベントとして紹介しているのか。

(校長) いろいろなパターンのボランティアがあるのでその都度対応している。

今年度は国体が開催される予定でボランティアの依頼があり、公務員科に告知して募っている。

学校を通して実施するものはこのような形で行っている。

学生が見つめてきて担任に相談する場合もある。

そういったボランティア活動も発信していくと学校のイメージもあがっていくと思う。SNSを利用して社会貢献を実施しているという事を発信していくといいと思う。

■押井委員

評価は3年度分をそのまま公表しているのか。また赤字の部分なども全部提示しているのか。

(谷川) 実際は黒字での表示になるが下部のコメントなども全部そのまま提示している。

例えば、【5】学生支援-20(卒業生への講習・研修を行っているか)については今年度からは削除していることがはっきりとわかるということでもいいのか。評価が2や3の項目について今まで継続していて何もしていない、努力していないというのが見えてくるが、それは構わないのか。2という評価を出すのはまずい。また3の評価の項目に対してもどうして3なのか、どうして4ではないのかという理由が書かれていない。他がほとんど4の場合3の項目に対してはその課題を書くべき。このようにしたら4になれる。来年は4を目指すということを記載したほうがいい。【5】学生支援-12(学生指導に対する教職員に係る相談窓口が周知されているか)および13(学生指導に対応する教職員に係る相談体制があるか)は同じ内容ではないか

(校長) それについては見直していきたい。

討議・意見交換終了。

ご指摘・ご提言いただいたことを真摯に受け止め、より良い環境を作るべく検討することを伝え、閉会した。

—以 上—

記録：水町